

家庭教育・子育て支援のためのプログラム

「なかよし親子大集合」～ネイパルタウンを創ろう～

1. 趣 旨

自然体験や宿泊体験を通して、親子の絆を深めるとともに、子育てに関して親同士が情報交流をする機会を設け、家庭の教育力の向上を図る。

2. 期 日

平成26年6月14日（土）～15日（日） 1泊2日

3. 主 催

道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4. 参加対象

親子 50名

5. 参加実績

参加人数 11家族 35名

ボランティア 3名

6. プログラム内容

	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
14日	受付開始 開会式		活動①「ネイパルタウンミーティング」 活動②「ネイパルクラフトタウンを創ろう！」			夕食	入浴	活動③ 「魔法の輝き！街灯りの路」			就寝
15日	6	7	8	9	10	11	12	13	14		
	起洗 床面	朝食	活動④ 「ネイパルタウン大掃除」 活動⑤ 「ネイパルタウン解散式」			11:20 閉会式 12:00 解散					

7. 活動の様子

本事業は、「自然体験や宿泊体験を通して、親子の絆を深めるとともに、子育てに関して親同士が情報交流をする機会を設け、家庭の教育力の向上を図る」ことをねらいに実施した。参加者は、函館市を中心に七飯町や長万部町から、4歳の子どもをはじめ小学校3年生までの親子、11家族35名が参加した。開会式では、阿部所長から、「親子で力を合わせて、いっぱい楽しんでほしい。」と挨拶があった。その後、ネイパルタウンミーティングを行った。「ネイパルタウン」の住人として、まちづくりに参加し、達成感を味わうことが取り組みの趣旨。「みんなのすべての夢をかなえるまち」とスローガンを設定し「あったらいいな」という施設や場所などのアイデアを出し合い、計画を立てた。ダンボールハウスの作成では、どの家族もどのように建設するかで手間取ったが、互いに協力し合って作り上げていった。子どもと一緒に作っていた親も最後の方では、むしろ自分たちが真剣になって取り組むぐらい、会場は熱気に包まれていた。子どもも慣れない手付きではあったが、ボランティアや職員の助けも借りながら、思い思いに個性的なものを作り上げていった。



完成した夢の建物を見て、どの家族も満足気だった。夕食の後は、暗くなった街に明かりが灯され、「魔法の輝き！街灯りの路」の活動。家族そろってネイパルタウンに集合、自分たちが作った建物に明かりを灯していった。どの家族もできあがった「ネイパルタウン」に静かな感動の眼差しを向けていた。次に子どもはタウンを散歩。親は広場でタウンの夜景を見ながら Café タイム。子ども達は、温泉に入ってみたり、動物園で遊んだりしながら楽しんだ。親は作るときの苦労話や子育てのことなどを語り合い、話に花が咲いた。2日目は、ネイパルタウンの解体、片付けを親子で行った。最後に「ネイパルタウン解散式【絆】」として、これまでの取り組みを振り返るビデオを視聴した。この二日間を通して、参加した親からは「家族で一つのことを取り組む機会が少なかったので、大変よい機会になりました。」「他の家族の方との交流を含めて一生忘れられない親子の思い出ができました。」という感想があった。

8. 参加者の声（保護者アンケートより）

- ・タウンミーティングで子どもは自分から発言する楽しさを感じたようだった。
- ・ネイパルタウン創り（ダンボールハウス作り）の時間が足りなかった。
- ・街灯りの路の灯り（照明）をもう少し明るくしてほしい。
- ・夜景の見える Café でみんなと楽しく会話ができてよかった。
- ・解散式のビデオで、他の家族の様子などを見られてよかった。
- ・子どもの創造力が増した。
- ・意外な一面として友達や大人とも自分から関わっていたところを発見できた。
- ・たくさんの人達と一緒に過ごすという非日常を体験し、良い刺激になった。

9. 事業の分析と考察

「ネイパルタウンを創ろう」という副題で、親子でダンボールハウスを作ったり、「ネイパルタウン」というまちづくりを住民（参加者）で協力して創りあげる活動をとおして、親子の絆を深め、理想のコミュニティについて考えてもらおうと本事業を企画、展開した。タウンミーティングは、子どもにとって初めての正式な会議である。自己紹介、アイデアの発表など緊張した様子を見せながらも一生懸命な姿を見た保護者が「普段よりもたくましい。」と成長を目の当たりにすることで親力向上、子育てへの意欲が高まったようだ。その後のダンボールハウス作りでも、子どもの発想を保護者が形にする過程で、改めて親の偉大さを子どもが実感するなど絆を深めることができた。夜の交流会は、あえて保護者と子どもを分けて行った。子ども達は、異年齢集団の中で積極的に他者と関わろうと努力をしていた。保護者も他の学校の状況や家庭教育の課題などについて情報交換を図り、有意義な時間を過ごすことができた。最終日の解散式に活動の様子をビデオ映像にまとめ上映した。他の家庭の活動の様子などを視聴することができ、それまでの苦労や達成感を味わうことができ、住民（参加者）の一体感が強まったように思う。家庭ではできない非日常的な活動は、親も子もそれぞれの可能性に気づくことができる貴重な体験で教育的効果が高いと言える。

10. 成果と課題

成果

- ・親子に自宅ではできない非日常的な体験を提供することができた。
- ・子どもの成長の瞬間を発見したり、感動を共有できる場面があり、保護者に好評だった。
- ・体育館が主会場となるので冬場（閑散期）でも実行可能。

課題

- ・段ボールの収集、保管について、街灯り（ライトアップ）の照明についてなど工夫、見直しが必要な面がある。
- ・子育て支援に繋がる情報提供、家族間の情報交流ができる場を増やしたい。